

カナダでの国際学会を通じて

工学府電気電子工学専攻M2 山本 貴之



はじめに

2014年9月28日から10月2日の間にカナダのバンクーバーで開催されたInteltec (International Telecommunications Energy Conference) 2014に参加しました。この国際会議では、情報通信エネルギーに関する最新の研究成果について、88件の口頭発表と34件のポスター発表が行われました。また観光ツアーも複数計画されており、世界一の長さを誇るキャピラノの吊り橋を渡り、グラウス山に登るツアーに参加しました。日本では感じることでできない広大な自然を満喫しました。

海外での発表を通じて

私は情報通信機器の電源部分をワンプラットフォームにまで小型化したPower-Socの実現を目的とした研究を行っています。本学会では、Power-Socを使用する上で必要となる新しい制御方法についてシミュレーションと実験を行った結果をポ



学会が行われた会場

スター発表しました。この制御方法では様々な電子機器に組み込まれているFPGAを使用し、一つの入力電圧から複数の出力電圧を得ることができると拡張性が高くなります。今回は私にとって2回目の国際学会でしたが、海外での発表は初めての経験でした。そのため発表に関する経験ではもちろんのこと、日本とは異なる海外の文化やシステムに対応できるのかといった不安もありました。いざ海外に渡ってみると現地の方々は親切な人ばかりで、初対面の私にも気軽に声をかけてくれ、様々な面で助けてもらいました。

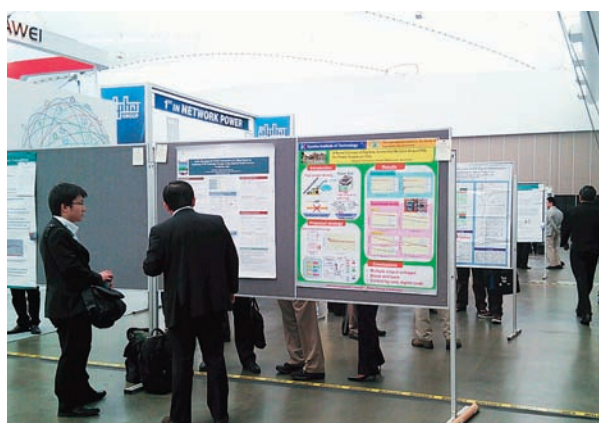
2時間に及ぶポスター発表では、国内外の研究者から多くの質問を受けました。私自身正英語は得意な方ではないのですが、慣れない英語を駆使しながら、時にはジェスチャーや図表を交えて説明を行いました。また私と似た研究をしている方もおり、その方と議論を交わすことで今後の研究に役立つ情報を得られたと同時に、自身の研究知識も深められました。

私がこの国際学会での経験を通じて感じたことは、研究者としての意識を高く持つことが大切であるとい

うことです。他の研究者の発表では、自身の研究をしっかりとアピールするために、ただ淡々と発表するのではなく、声の抑揚や身振り手ぶりを上手に使っていました。こうした姿勢は、今後社会にでた際にも必ず必要になると思いますので大変参考になりました。

おわりに

今回の国際学会参加に当たり、奨学金の援助をしていただいた明専会、並びに論文執筆や発表に関してご指導いただいた松本聡教授に厚くお礼申し上げます。



会場内の様子